

こだま

第713号



岩手県森林組合連合会

発行／岩手県森林組合連合会
 住所／岩手県盛岡市中央通3丁目15番17号
 電話／019(654)4411
 FAX／019(654)4420
 URL／<https://iwatemoriren.org>

県森連盛岡木材流通センター 秋期優良材展示即売会(後期)開催



展示即売会の様子

十一月十八日、盛岡木材流通センターにおいて、令和三年秋期優良材展示即売会(後期)が開催され、三、七五〇m³(前年度対比一四三%)の素材が落札された。落札率は九十二%。
 前年度対比で、針葉樹が取扱材積二一〇%、落札価格二九七%、一m³あたりの単価が一七、八三九円(前年度比一四一%)、広葉樹に関して、取扱材積一一三%、落札価格一二〇%であり、一m³あたりの単価が三二、〇一四円(前年度比一〇六%)と高くなっている。

主な高値落札物件は以下の表のとおり。

田口岩手県森連木材部長は「昨年より千m³も多く集荷ができ、関係者の皆様に感謝したい。ウッドショックの影響を受け、木材全体の単価はコロナ前よりも高くなっている。広葉樹、中でもナラの単価上昇が著しく、m³あたり三千円から五千円程高くなっている。針葉樹はスギの中目が例年の三千円アップとなった。この状況は、年内は続くと思込まれる。」

コロナによる人手不足の影響で

中国の港の荷役作業が進まず、九州では輸出入の材が滞留しているとの情報もあり、その材が国内で流通するようになれば、スギの単価は年明け以降次第に落ち着いてくるのではないかと加えて国有林の請負生産が十二

盛岡木材流通センター 主な高値落札物件(11/18)

樹種	長さ(m)	径級(cm)	m ³ 単価(円)
スギ	9.00	128	152,000
アカマツ	4.00	74	88,900
ヒバ	4.00	40	80,000
カラマツ	4.00	32~42	25,000
ブナ	3.00	48	70,900
ナラ	4.40	52	160,000
ウダイ	5.20	42	72,800
クリ	3.60	64	500,019
オニグルミ	2.20	44	130,000
ミズメ	4.00	46	120,000
ホオ	2.20	38	100,000
サクラ	2.20	46	82,000
イタヤ	2.10	44	203,000
トチ	4.40	50	147,000
キリ	1.80	78	130,000

月を目的に終わることでも丸太生産が増加することも単価に影響してくるだろう。いずれにしても広葉樹の物不足に加え、スギ中目がm³あたり一万五千円になるのは、ここ一〇年ではなかったことで、山に還元されるお金が増えることは喜ばしい限り」と話している。

また、同センターでは昨年引き続き盛岡市が主催する「森のしごと見学会」が十月二十九日に行われ、岩手県立盛岡農業高等学校の生徒二十一名(環境科学科一年生)が参加した。見学会では、木幡指導グループ長による岩手県森連の仕事内容の説明、伊藤共販グループ長による丸太の説明が行われた。

『中崎和久氏と語る「林業県いわての次世代に残すもの」』意見交換会開催される



意見交換をする登壇者

岩手県林業団体青年部連絡協議会は、この度全国森林組合連合会の代表理事会長に就任した中崎和久氏を迎え、『中崎和久氏と語る「林業県いわての次世代に残すもの」』と題した意見交換会を、十一月十八日に岩手県林業技術センター大講義室にて開催した。

同意見交換会には、同協議会の会員十七名が参加し、各会員団体から一名が代表者として登壇し、意見交換を行った。

開会に当たり、澤幹信同協議会会長が「ベテランと呼ばれる世代になった我々は、これからの林業を担う次世代の育成やスキルアップをしていかなければならない。全森連の会長となられた中崎氏から、全国から見た岩手の林業、そして岩手から全国へ発信する林業についてお話を頂くと共に、活発な意見交換をしたい」と挨拶をした。

最初に中崎氏より、「岩手県の森林・林業について、豊かでバランスの良い岩手県の森林を循環させていくためには再造林等を進めていかなければならない中で、最大の課題は『人材』の確保である」との話題提供があり、登壇者との意見交換が始まった。

齋藤眞琴岩手県林業研究グループ連絡協議会会長は、「昔の林業従事者は『子や孫の代まで良いものを残そう』という意識のもとに一本一本の木に強い思いを持って作業していたが、現代では木材価値の下落もあり、『この木を育てる』という意識が薄れているため、こ

れからの林業を担う従事者には山づくりに対する思いを丁寧に伝えていくことが大切である」と話した。

横澤孝志ノースジャパン素材流通協同組合青年部会会長の「林業の面白さ・覚える楽しみは、覚えることがたくさんあり、技術を習得するまでに時間がかかること」との発言に、齋藤眞琴会長は「教えること、そして人を育てることが山に対する思いやモチベーションに繋がる」と答えた。

佐藤重昭岩手県林業経営者協会副会長からは、「戦後、民間の山が放置され、森林所有者と経営者の分離が起こっている状況である。山元にお金が残るよう、森林所有者が希望を持てるように、川上と川下の関係を大切にしていかなければならない」との意見が挙げられた。

高橋久祐岩手県森林組合青年部連絡協議会監事の「森林組合の仕

事内容について市民には知られていないことがたくさんあり、市民の森林に対する認識の薄さを感じる一方、木材利用の問い合わせが増えてきていることも事実。市民参加型の森林への接触機会を増やしていきたい。」との発言に、中崎氏は「子供たちが『山に入りたい』と思うような機会を与えていく必要がある」と答えた。

中川原壮一岩手県木材青壮年協議会副会長が、県内にも広がりを見せるナラ枯れ被害の対応について中崎氏に意見を求めると、中崎氏は『ナラ枯被害材等に関するガイドライン』で、被害地域では伐採時期や伐採木の移動も制限されている。ガイドラインを守りながら、いかに被害木の利用を進めていくか今後の課題である。」と話した。

これらのほかにも、これからの林業に期待することなどについて意見が交わされ、意見交換会は盛会裡に終了した。

第二十九回全国森林組合大会開催 新森林組合系統運動方針を決議

今年で二十九回目を迎える全国森林組合大会が、十月二十八日に

東京都港区にあるホテルメルパルク東京で開催された。

岩手県森林組合連合会 11月上旬市況

一般素材県内各センター渡し丸太標準価格(㎡当たり)

樹種	長級 (m)	径級 (cm)	標準価格 (1㎡当たり)	今後の動向
スギ	4.00	10~16	9,000	→
	3.65	18~28	13,000	↑
	3.65	30上	12,500	→
	3.65	40上	11,000	→
	3.00	14~18	13,000	↑
	2.00	18上	8,000	↑
アカマツ	4.00	18~22	11,000	→
	4.00	24~28	11,500	→
	4.00	30上	11,500	→
	4.00	40上	12,000	→
	3.00	18~28	10,000	→
	3.00	30上	11,000	→
	2.20	40上	12,000	→
	2.00	18上	10,000	→
カラマツ	4.00	14下	12,500	↑
	4.00	16~28	21,500	↑
	4.00	30上	22,000	↑

本大会は五年に一度、規模を拡大し開催されているが、この度の大会は新型コロナウイルス感染拡大の観点から、各県三名との人数制限が設けられ、例年より規模を縮小しての開催となった。また、参加できない森林組合等に、当日の会場の様子が動画で配信された。大会では、森林組合の経営内容が特に優秀で、森林組合系統運動「Jforest 森林・林業・山村未来創造運動」の3つの取組項目について著しい成果を残している「優良組合表彰」が行われた。

また、永年にわたり、組織の発展に功労があった方(常勤役員通算九年以上、代表理事通算六年以上、職員通算二十年以上、作業班員通算五年以上かつ過去三か月の年間就労日数が百五十日以上)に贈られる「功労者表彰(永年勤続)」などの表彰が行われ、本県からは全国森林組合連合会会長表彰として次のとおり表彰された。

- Ⅰ優良組合表彰
 - 釜石地方森林組合
- Ⅱ功労者表彰(永年勤続)
 - 森林組合役員
 - 佐藤 武志(浄安森林組合)
 - 森林組合職員
 - 藤原 大輔(花巻市森林組合)
 - 佐々木 真智子
- Ⅲ感謝表彰(退職者の永年に亘る系統組織発展への功績)
 - (花巻市森林組合)
 - 佐藤 孝(一関地方森林組合)
 - 西城 英寿(一関地方森林組合)
 - 現場技能者
 - 及川 雄悦(盛岡広域森林組合)
 - 佐々木 壽(盛岡広域森林組合)
 - 村田 義則(葛巻町森林組合)
 - 藤原 喜美男
 - (奥州地方森林組合)
 - 糸谷 竹一(一関地方森林組合)
 - 村上 武彦(一関地方森林組合)
 - 口石 大介(遠野地方森林組合)
 - 姉帯 和総(浄安森林組合)
 - 蛇口 吉男(浄安森林組合)

・連合会職員
佐藤 まりえ
(岩手県森林組合連合会)

・森林組合職員
京谷 朱美(遠野地方森林組合)
表彰後は議事として、新森林組合系統運動方針、「JForest」によるSDGs達成に向けた取組及び、森林整備のための財源確保について決議された。

次に大会決議案が出され、参加者の満場の拍手で承認された。
大会決議は次のとおり。

- 1 主伐後の再造林の確実な実施を通じた森林資源の循環利用の推進と林業経営確立のための取組強化、国土保全等森林の公益的機能の発揮に必要な森林整備予算の大幅な拡充
- 2 技能検定制度創設等労働安全対策推進や就業環境改善とともに「緑の雇用」事業、森林施業プランナー育成対策事業等による人材の確保・育成
- 3 国産材の新たな需要を創出するとともに都市の木造化や輸出推進等による木材需要の拡大



スギ中目材、高値

県内センターの取扱量は累計で前年度比97.7%。単月では約700m³の販売減。

県内合板工場の生産は順調ではあるが、スギ、カラマツ共に在庫が少ない状況が続いている。

スギ中目材、細材の売れ行きは好調。中目材は物不足ということもあり価格上昇。細材、大径材は保合。役物用は需要あり。

カラマツは、高値。需要に対して供給が不足している状況。小径木は、6～12cmが不足しており、価格上昇。13～14cmは保合。

ヒノキは、物不足のため高値。

盛岡センターでは、広葉樹の入荷が少ない状況。ナラ、クリ、サクラ、ウダイ、ミズメ、イタヤは引き合い価格ともに強気。特にナラの30cm上は高値。

＜上段…特選材 下段…一般材＞ (m³当たり)

木材流通センター			盛岡	一関	遠野	高田	宮古	二戸	久慈	浄安	釜石	東磐
樹種	長級(m)	径級(cm)	10月14日	10月6日	10月25日	10月15日	10月8日	10月5日	10月13日	10月26日	開催せず	10月27日
スギ	2.00	18cm上	8,000	8,000	8,000	-	-	9,000	9,170	8,500	-	6,500
	3.00	16～26	13,650	12,160	13,250	13,680	-	-	11,901	11,600	-	13,380
	3.65	18～28	12,500	12,420	10,670	-	-	-	-	12,100	-	13,300
	3.65 4.00	30cm上	45,800 12,920	13,600 11,060	12,920	13,690	12,660	12,285	10,701	16,120 13,100	-	11,980
	4.00	10～16	8,000	8,500	9,500	9,060	9,700	8,500	8,520	7,200	-	9,340
落札数量	2,838 m ³		298	248	400	306	190	120	35	579	0	663
アカマツ	2.20	36cm上	-	12,600 10,500	-	-	-	8,370	-	8,300	-	-
	3.00	14～28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	4.00	18～28	-	-	-	-	10,600	-	-	9,400	-	-
	4.00	30cm上	-	-	-	-	-	9,501	12,000	9,590	-	-
落札数量	125.87 m ³		0	0	0	14	26	14	13	58,671	0	0
カラマツ	4.00	7～13	12,500	-	12,000	-	-	12,555	10,500	11,500	-	-
	4.00	14～28	21,300	-	19,000	-	19,050	19,510	21,530	19,000	-	17,120
落札数量	1,322 m ³		165	1	133	2	59	373	408	157	0	23
出荷数量	6,487 m ³		1,689	372	647	414	294	632	811	974	-	655
落札数量	6,046 m ³		1,451	269	647	404	285	632	792	974	-	591
平均落札率	93%		86%	72%	100%	98%	97%	100%	98%	100%	-	90%
延べ参加者	236名		73	23	20	15	11	21	19	25	0	29

※ 総出荷・総落札数量については、上記の樹種以外も含まれます。

今後の動向	スギ					アカマツ				カラマツ	
	2.00	3.00	3.65	3.65	4.00	2.20	3.00	4.00	4.00	4.00	4.00
	18上	14～18	18～28	30上	10～16	36上	14～28	18～28	30上	7～13	14～28
強気配	○	○	○	○						○	○
保合い					○	○	○	○	○		
弱気配											

造作用材のポイント

1. 元根曲りを付けないこと
2. キズ、欠点などは除くこと
3. 延寸は十分付けること